

# 厚生年金保険・国民年金事業の概況 (令和2年7月現在)

この統計では基本的に、被用者年金一元化により新たに厚生年金保険の適用対象となった、国家公務員共済組合、地方公務員共済組合及び日本私立学校振興・共済事業団の情報を含まない。

## 1. 総括

### (1) 適用状況

- 令和2年7月末の国民年金と厚生年金保険（第1号）の被保険者数は、6,299万人であり、前年同月に比べて、7万人（0.1%）減少している。

表1 制度別適用状況

	事業所数	被保険者数(人)			標準報酬月額 の平均(円)
		総数	男子	女子	
厚生年金保険(第1号)	2,460,811	40,796,625	25,049,003	15,747,622	312,535
船員以外	2,456,689	40,745,077	24,997,455	15,747,622	312,422
一般男子	・	24,996,986	24,996,986	・	354,594
女子	・	15,747,622	・	15,747,622	245,478
坑内員	・	469	469	・	365,518
(再掲)短時間労働者	37,094	508,398	135,675	372,723	146,595
船員	4,122	51,548	51,548	・	402,300
国民年金	・	22,196,913	7,485,397	14,711,516	・
第1号	・	13,926,189	7,303,938	6,622,251	・
任意加入	・	182,719	64,964	117,755	・
第3号	・	8,088,005	116,495	7,971,510	・
合計	・	62,993,538	32,534,400	30,459,138	・

注. 厚生年金保険(第1号)の被保険者のうち、坑内員及び船員は全員男子とみなした。

### (2) 給付状況

- 令和2年7月末の国民年金、厚生年金保険（第1号）及び福祉年金の受給者数（同一の年金種別を除く延人数）は、4,468万人であり、前年同月に比べて、8万人（0.2%）減少している。

注. 厚生年金保険(第1号)の受給(権)者とは、厚生年金保険受給(権)者全体から、共済組合等の組合員等たる厚生年金保険の被保険者期間(平成27年9月以前の共済組合等の組合員等の期間を含む)のみの者を除き、さらに、障害厚生年金受給(権)者及び短期要件分の遺族厚生年金受給(権)者について、それぞれ初診日又は死亡日に共済組合等の組合員等であった者を除いた者をいう。

表2 制度別年金受給者数

(単位:人)

	総数	老齢給付		障害年金	遺族給付	
		老齢年金 ・25年以上	通算老齢年金 ・25年未満		遺族年金	通算遺族年金
厚生年金保険(第1号)計	35,537,482	15,414,817	14,032,203	455,194	5,616,260	19,008
旧共済組合を除く	35,186,871	15,207,225	13,966,697	452,553	5,541,869	18,527
旧法	850,746	296,124	224,377	30,862	281,248	18,135
新法	34,316,925	14,904,561	13,741,402	420,700	5,250,262	・
(再掲)基礎あり	26,383,194	13,841,168	12,191,210	286,720	64,096	・
基礎または定額あり	26,133,377	13,914,897	12,218,480	・	・	・
基礎繰上げあり	1,978,721	578,667	1,400,054	・	・	・
基礎繰上げなし	24,154,656	13,336,230	10,818,426	・	・	・
基礎及び定額なし	2,512,586	989,664	1,522,922	・	・	・
船員保険(旧法)	19,200	6,540	918	991	10,359	392
旧共済組合計	350,611	207,592	65,506	2,641	74,391	481
旧法	95,197	69,185	2,214	1,038	22,279	481
新法	255,414	138,407	63,292	1,603	52,112	・
(再掲)基礎あり	198,984	137,304	60,337	1,341	2	・
国民年金計	35,727,359	32,709,087	931,283	2,001,943	85,046	・
(再掲)基礎のみ共済なし・旧国年	7,670,212	5,583,372	421,782	1,635,020	30,038	・
旧法抛出し	767,447	412,515	308,088	38,330	8,514	・
新法基礎年金	34,959,912	32,296,572	623,195	1,963,613	76,532	・
(再掲)基礎のみ	8,005,643	6,221,843	114,812	1,641,445	27,543	・
(再掲)基礎のみ共済なし	6,902,765	5,170,857	113,694	1,596,690	21,524	・
福祉年金	22	・	・	・	・	・
合計	44,682,685	34,145,454	2,711,939	2,169,076	5,637,208	19,008

- 注1. 厚生年金保険(第1号)の受給者とは、厚生年金保険受給者全体から、共済組合等の組合員等たる厚生年金保険の被保険者期間(平成27年9月以前の共済組合等の組合員等の期間を含む)のみの者を除き、さらに、障害厚生年金受給者及び短期要件分の遺族厚生年金受給者について、それぞれ初診日又は死亡日に共済組合等の組合員等であった者を除いた者をいう。
2. 新法老齢厚生年金(第1号)のうち、旧法の老齢年金に相当するものは「老齢年金・25年以上」に、それ以外のものは「通算老齢年金・25年未満」に計上している。新法退職共済年金についても同様。
3. 人数の合計は、厚生年金保険(第1号)と同一の年金種別の基礎年金を併給している者の重複分を控除した数である。
4. 「旧共済組合」は、厚生年金保険に統合された時点で旧J R 共済、旧N T T 共済、旧J T 共済又は旧農林共済の受給権が発生していた者をいう。
5. 「基礎あり」は、同一の年金種別の基礎年金の受給権を有する者をいう。
6. 新法基礎年金のうち、老齢基礎年金の受給資格期間を25年以上有するものは「老齢年金・25年以上」に、それ以外のものは「通算老齢年金・25年未満」に計上している。
7. 「基礎のみ」は、同一の年金種別の厚生年金保険(第1号)(旧共済組合を除く)の受給権を有しない基礎年金受給者という。
8. 「基礎のみ共済なし」は「基礎のみ」の受給者のうち、共済組合等の組合員等たる厚生年金保険の被保険者期間(平成27年9月以前の共済組合等の組合員等の期間を含む)を有しない受給者をいう。
9. 寡婦年金については、新法においても存続しているが、国民年金第1号被保険者であった夫の妻のみに対して適用され、基礎年金一律の給付ではないため、新法分も便宜上旧法抛出しに計上している。

○ 令和2年7月末の国民年金、厚生年金保険（第1号）及び福祉年金の受給者の年金総額は、49兆6千億円であり、前年同月に比べて、3千億円（0.5%）増加している。

注. 厚生年金保険（第1号）受給（権）者の年金総額は、老齢給付及び遺族年金（長期要件）については、平成27年9月以前の厚生年金保険被保険者期間及び平成27年10月以降の第1号厚生年金被保険者期間に係る年金総額であり、平成27年10月以降に受給権が発生した障害厚生年金及び遺族厚生年金（短期要件）については、共済組合等の組合員等たる厚生年金保険の被保険者期間（平成27年9月以前の共済組合等の組合員等の期間を含む）を含めて算出した年金総額である。

表3 制度別受給者年金総額

(単位：百万円)

	総数	老齢給付		障害年金	遺族給付	
		老齢年金 ・25年以上	通算老齢年金 ・25年未満		遺族年金	通算遺族年金
厚生年金保険（第1号）計	25,541,332	17,211,909	2,462,990	315,335	5,545,928	5,169
旧共済組合を除く	25,133,076	16,906,413	2,448,270	312,873	5,460,466	5,054
旧法	886,945	470,184	84,500	36,203	291,106	4,952
新法	24,207,475	16,417,250	2,363,455	274,571	5,152,200	・
(別掲)基礎年金	17,980,255	9,779,508	7,894,528	244,384	61,834	・
船員保険(旧法)	38,656	18,979	315	2,099	17,160	102
旧共済組合計	408,255	305,496	14,720	2,462	85,462	116
旧法	175,024	146,339	1,049	1,477	26,043	116
新法	233,231	159,157	13,670	985	59,419	・
(別掲)基礎年金	147,785	102,357	44,317	1,110	2	・
国民年金計	24,101,231	22,070,139	214,647	1,731,246	85,198	・
(再掲)基礎のみ共済なし・旧国年	4,966,255	3,423,318	96,544	1,420,143	26,250	・
旧法拠出制	312,347	203,878	70,929	33,711	3,829	・
新法基礎年金	23,788,883	21,866,261	143,718	1,697,535	81,369	・
(再掲)基礎のみ	5,469,273	3,989,936	25,897	1,424,435	29,005	・
(再掲)基礎のみ共済なし	4,653,908	3,219,440	25,615	1,386,432	22,421	・
福祉年金	9	9	・	・	・	・
合計	49,642,571	39,282,057	2,677,637	2,046,581	5,631,127	5,169

注1. 厚生年金保険（第1号）受給者の年金総額は、老齢給付及び遺族年金（長期要件）については、平成27年9月以前の厚生年金保険被保険者期間及び平成27年10月以降の第1号厚生年金被保険者期間に係る年金総額であり、平成27年10月以降に受給権が発生した障害厚生年金及び遺族厚生年金（短期要件）については、共済組合等の組合員等たる厚生年金保険の被保険者期間（平成27年9月以前の共済組合等の組合員等の期間を含む）を含めて算出した年金総額である。

2. 年金総額には一部停止額を含む。

3. 「旧共済組合」は、厚生年金保険に統合された時点で旧J R共済、旧N T T共済、旧J T共済又は旧農林共済の受給権が発生していた者の当該年金の年金総額である。

4. 「基礎のみ」は、同一の年金種別の厚生年金保険（第1号）（旧共済組合を除く）の受給権を有しない基礎年金受給者の年金総額である。

5. 「基礎のみ共済なし」は「基礎のみ」の受給者のうち、共済組合等の組合員等たる厚生年金保険の被保険者期間（平成27年9月以前の共済組合等の組合員等の期間を含む）を有しない受給者の年金総額である。

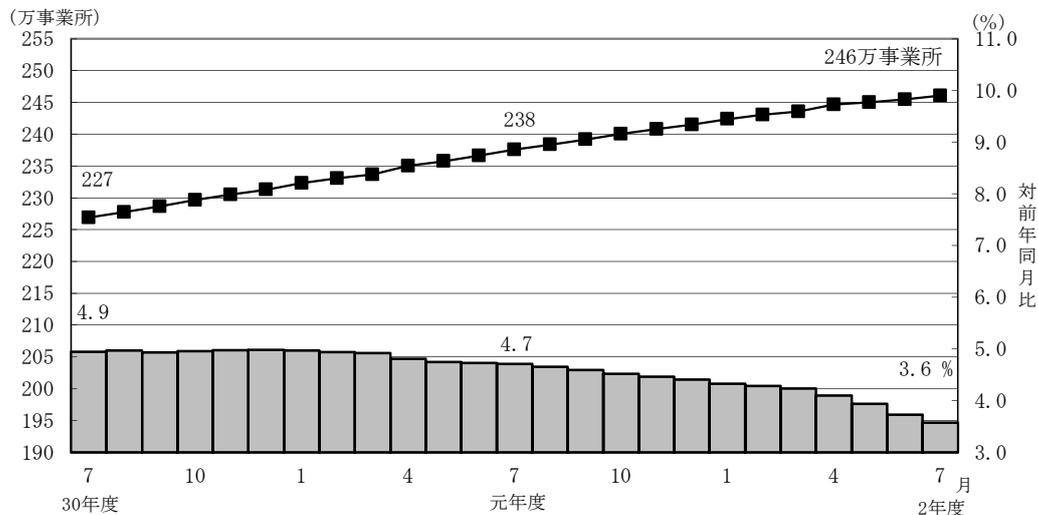
6. 寡婦年金については、新法においても存続しているが、国民年金第1号被保険者であった夫の妻のみに対して適用され、基礎年金一律の給付ではないため、新法分も便宜上旧法拠出制に計上している。

## 2. 厚生年金保険

### (1) 適用状況

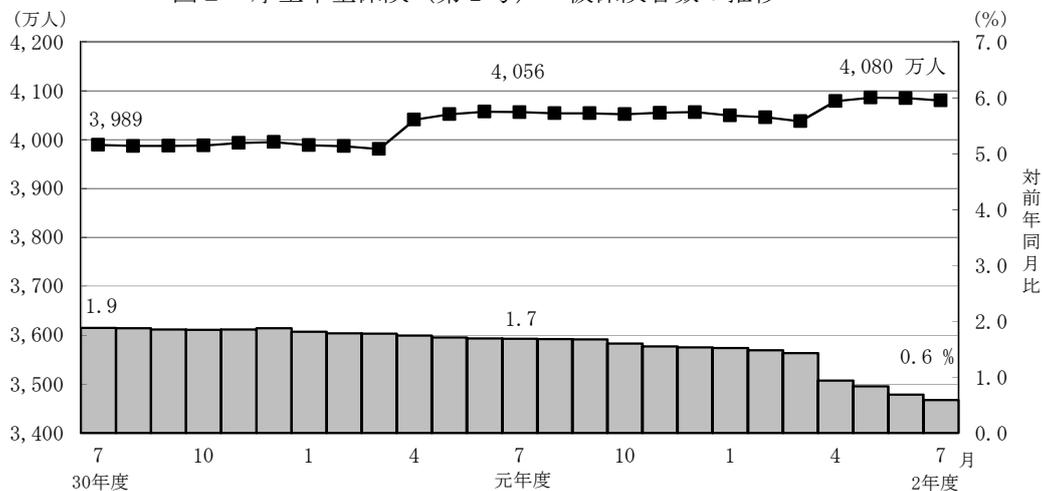
○ 令和2年7月末の厚生年金保険（第1号）の適用事業所数は246万事業所であり、前年同月に比べて8万事業所（3.6%）増加している。

図1 厚生年金保険（第1号）適用事業所数の推移



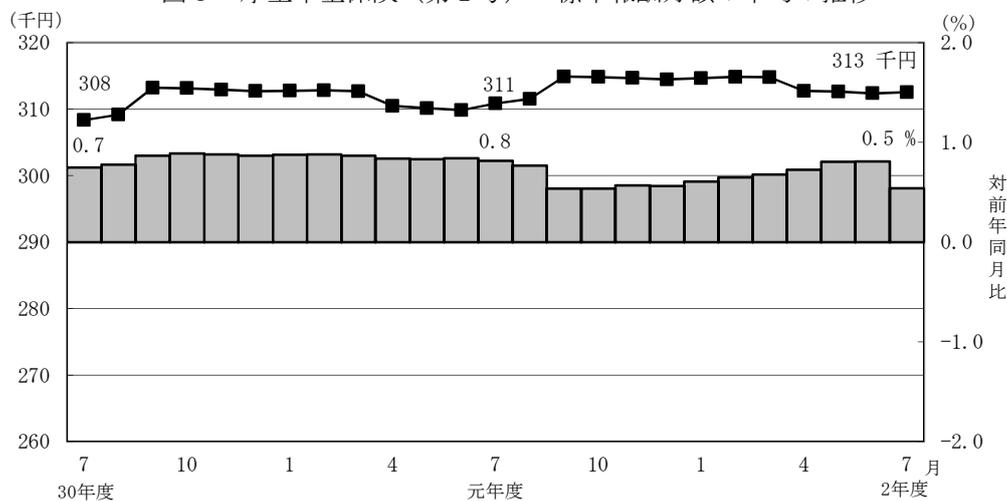
- 厚生年金保険（第1号）の被保険者数は4,080万人となっており、前年同月に比べて24万人（0.6%）増加している。内訳をみると、一般男子が2,500万人（対前年同月比4千人、0.0%増）、女子が1,575万人（対前年同月比24万人、1.5%増）、坑内員が5百人（対前年同月比52人、10.0%減）、船員が5万人（対前年同月比1千人、2.0%減）である。

図2 厚生年金保険（第1号） 被保険者数の推移



- 厚生年金保険（第1号）被保険者の標準報酬月額の前平均は、31万2,535円となっており前年同月に比べて0.5%増加している。内訳をみると、一般男子は35万4,594円（対前年同月比0.5%増）、女子は24万5,478円（対前年同月比1.1%増）、坑内員は36万5,518円（対前年同月比1.3%増）、船員が40万2,300円（対前年同月比0.7%増）である。

図3 厚生年金保険（第1号） 標準報酬月額の前平均の推移

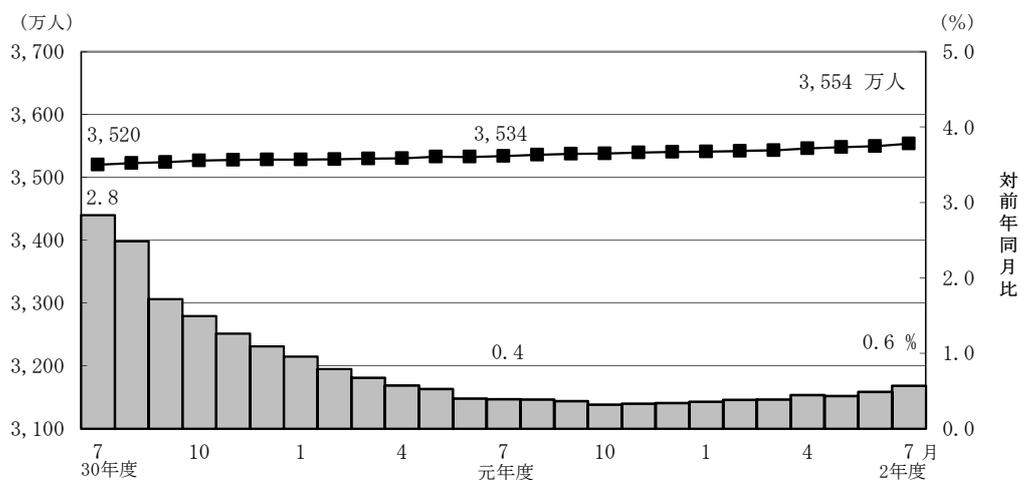


- 厚生年金保険（第1号）被保険者に係る賞与支給事業所数は40万事業所、賞与支給被保険者数は1,329万人、標準賞与額の前平均は41万8,101円となっている。

## (2) 給付状況

- 令和2年7月末の厚生年金保険（第1号）受給者数は3,554万人（旧法厚年分85万人、新法厚年分3,432万人、旧法船保分2万人、旧共済分35万人）で、前年同月に比べて20万人（0.6%）増加している。
- 老齢給付の受給者数は2,945万人（旧法厚年分52万人、新法厚年分2,865万人、旧法船保分7千人、旧共済分27万人）で、前年同月に比べて13万人（0.4%）増加している。
- 障害給付の受給者数は46万人（旧法厚年分3万人、新法厚年分42万人、旧法船保分1千人、旧共済分3千人）で、前年同月に比べて1万人（3.0%）増加している。
- 遺族給付の受給者数は564万人（旧法厚年分30万人、新法厚年分525万人、旧法船保分1万人、旧共済分7万人）で、前年同月に比べて6万人（1.1%）増加している。

図4 厚生年金保険（第1号） 受給者数の推移



- 令和2年7月末の厚生年金保険（第1号）の受給者に係る老齢年金の平均年金月額 は、14万6,470円となっている。

- 令和2年7月末における失業給付との調整に該当する厚生年金保険（第1号）の受給権者数は4万人、高年齢雇用継続給付との併給調整に該当する受給権者数は16万人となっている。

表4 雇用保険の給付と厚生年金保険（第1号）の受給権者に係る老齢厚生年金との調整

	失業給付									
	件数（人）			総停止年金額（千円）			平均停止月額（円）			
	計	老齢相当	通老相当 ・25年未満	計	老齢相当	通老相当 ・25年未満	計	老齢相当	通老相当 ・25年未満	
令和2年	2月	30,693	18,274	12,419	18,217,908	15,863,429	2,354,479	49,463	72,341	15,799
	3月	30,402	17,918	12,484	17,891,272	15,533,381	2,357,891	49,041	72,243	15,739
	4月	29,208	17,033	12,175	17,015,013	14,711,927	2,303,086	48,546	71,978	15,764
	5月	32,030	18,928	13,102	18,527,364	16,033,036	2,494,328	48,203	70,588	15,865
	6月	36,787	21,685	15,102	21,074,346	18,198,129	2,876,217	47,740	69,934	15,871
	7月	40,309	23,596	16,713	23,024,674	19,844,160	3,180,514	47,600	70,083	15,858

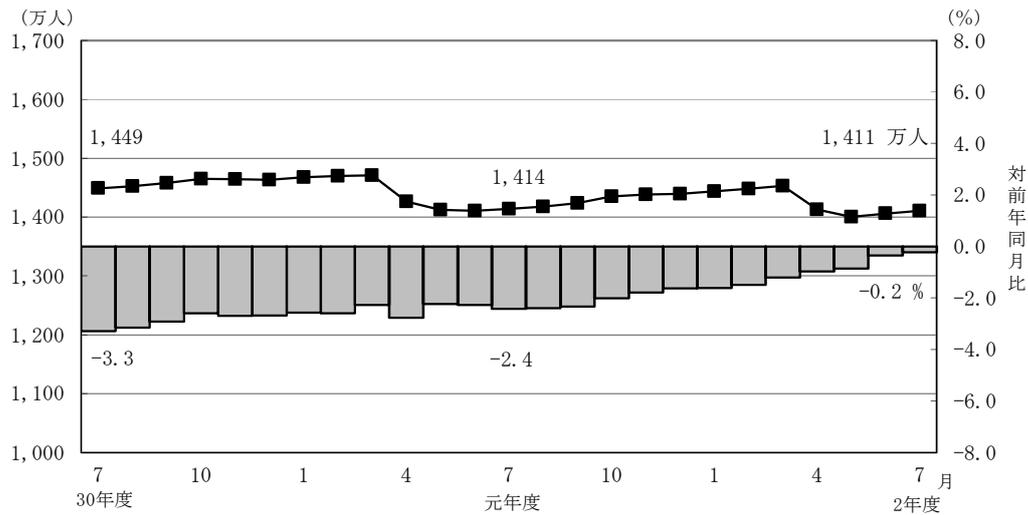
	高年齢雇用継続給付									
	件数（人）			高年齢雇用継続給付による停止総額（千円）			平均停止月額（円）			
	計	老齢相当	通老相当 ・25年未満	計	老齢相当	通老相当 ・25年未満	計	老齢相当	通老相当 ・25年未満	
令和2年	2月	192,692	184,989	7,703	25,534,485	24,843,305	691,180	11,043	11,191	7,477
	3月	187,445	179,731	7,714	24,763,945	24,073,330	690,614	11,009	11,162	7,461
	4月	180,407	172,757	7,650	23,778,410	23,091,992	686,418	10,984	11,139	7,477
	5月	170,106	162,608	7,498	22,324,471	21,657,673	666,798	10,937	11,099	7,411
	6月	165,025	157,567	7,458	21,637,022	20,972,520	664,502	10,926	11,092	7,425
	7月	162,401	154,956	7,445	21,306,792	20,632,396	674,397	10,933	11,096	7,549

### 3. 国民年金

#### (1) 適用状況

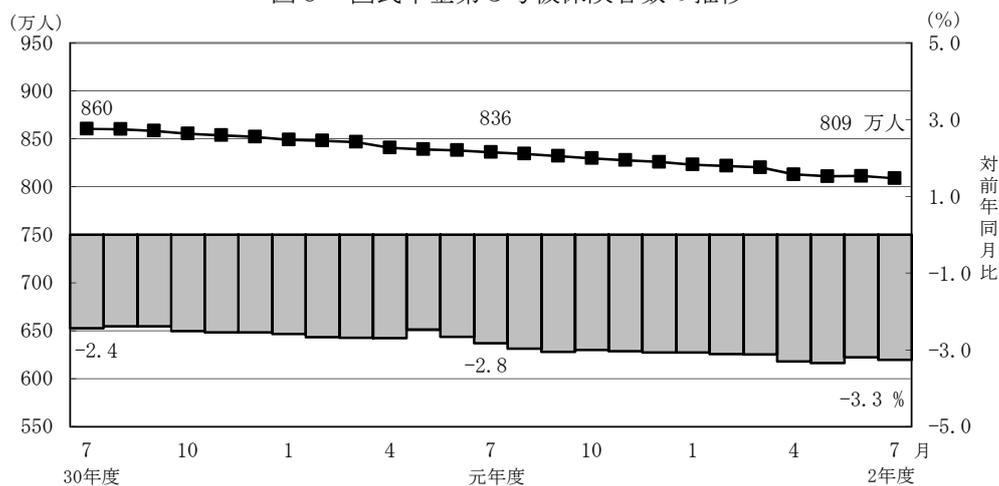
- 令和2年7月末の第1号被保険者数（任意加入被保険者を含む。）は、1,411万人となっており、前年同月に比べて3万人（0.2%）減少している。内訳をみると、男子は737万人（対前年同月比1万人、0.2%増）、女子は674万人（対前年同月比4万人、0.7%減）である。

図5 国民年金第1号被保険者数（任意加入を含む）の推移



- 第3号被保険者数は809万人となっており、前年同月に比べて27万人（3.3%）減少している。内訳をみると、男子は12万人（対前年同月比4千人、3.4%増）、女子は797万人（対前年同月比28万人、3.3%減）となっている。

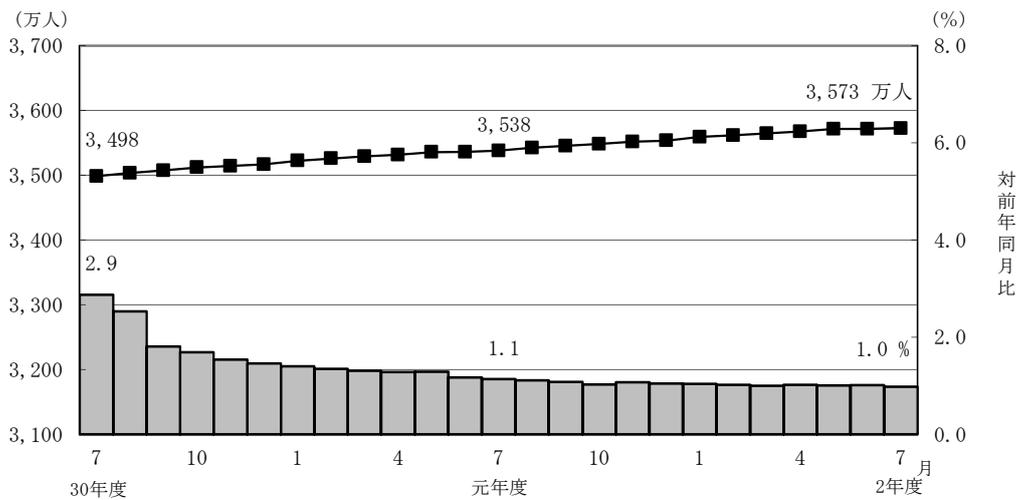
図6 国民年金第3号被保険者数の推移



## (2) 給付状況

- 令和2年7月末の国民年金受給者数は3,573万人（旧法拠出制77万人、基礎年金3,496万人）で、前年同月に比べて35万人（1.0%）増加している。
- 老齢給付の受給者数は3,364万人（旧法拠出制72万人、基礎年金3,292万人）で、前年同月に比べて31万人（0.9%）増加している。
- 障害給付の受給者数は200万人（旧法拠出制4万人、基礎年金196万人）で、前年同月に比べて3万人（1.7%）増加している。
- 遺族給付の受給者数は9万人（旧法拠出制9千人、基礎年金8万人）で、前年同月に比べて2千人（2.4%）減少している。

図7 国民年金受給者数の推移



- 国民年金の老齢年金・25年以上の受給者の平均年金月額は、令和2年7月末で5万6,228円となっている。  
老齢年金・25年以上の新規裁定者（受給者）の平均年金月額は、5万3,938円となっている。
- 旧法老齢年金受給権者及び同一の年金種別の厚生年金保険（第1号）（旧共済組合を除く）の受給権を有しない基礎年金の老齢給付の受給権者について繰上げ受給の状況を見ると、7月は新規裁定者1万4千人のうち繰上げ受給権者が1千人となっており、繰上げ受給率は6.5%である。なお、令和元年度新規裁定者の繰上げ受給率は6.1%となっている。